

# 河北町教育委員との懇談会報告書

厚生文教常任委員会

## 1 日程と開催場所

平成30年5月8日（火）午前10時～午前11時30分 河北町役場議員控室

## 2 目的

教育行政の課題（学区再編、英語教育、いじめ問題、学力向上など）について

## 3 出席者

委員長 榎 正義  
副委員長 東海林信弘  
委員 丹野 貞子、増川 修、細矢 誓子、石垣 光洋  
議会事務局 中野 局長補佐

河北町教育委員会

教育長 原田 孝夫  
教育長職務代理者 真石 由美子  
教育委員 板坂 憲助、大山 直子、丹野 正英  
学校教育課 佐藤 課長、石山 教育主幹（兼）指導主事、秋葉 指導主事、  
丹野 課長補佐

## 4 懇談内容

今回の懇談は、厚生文教常任委員長、教育長から挨拶をいただき、その後、課題ごとに教育委員会の皆さんを中心にご意見をいただき、各議員からも発言をいただいた。

### 【学区再編について】

平成29年度に3回行われた「小学校の将来を考える会」のまとめと、これからの学区再編について懇談した。

◇町長は小学校6校を維持していく、と話してくれたことは関係者に安心を与えている。



地域で太鼓演奏を披露する子どもたち

これからの小学校の在り方について、今後も議論は必要と考える。

◇地域とのつながりを大切に、行政主導で進めない、などの声を大事に、小規模でもそのメリットを生かした教育が大事である。

◇地域の小規模学校に対する保護者の不安もあることは事実である。

たとえば、町内の小学校間の交流学习やス

ポーツ交流なども必要ではないかとの意見がある。

◇今後の小学校の在り方（学区再編など）と学校運営は、平成29年度に行ったまとめを踏まえて、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入を考えて行く。

### 【いじめについて】

◇いじめ問題については、平成30年3月議会において「河北町いじめ防止対策の推進に関する条例」が制定され、その具体的基本方針についても示された。今後、実効性が上がるよう教育委員会として取組むとの発言があった。

### 【探究型学習と学力向上について】

◇探究型学習は学力向上に確実に結びついていて、先生方の姿勢も変わった。

今年度から「河北中学校」と「谷地南部小学校」が探究型学習校として指定を受けた。

### 【英語教育について】

◇小学校でも英語が教科になったことも踏まえ、本町が進める「町民を対象にした英語教育」については、理解ができるので積極的に取組む必要がある。

（婦人文化教室、KIRAクラブ会員の拡大、英語検定の取得の支援など）

◇インバウンドが拡大しつつある中で、本町も外国人の受け入れに力を入れるなど敏感に対応し、多くの外国人と町民が交流できる環境整備が大切だ。

「英語の町、河北」を印象付けるため、町の中に英語表記の看板などを多く設置することも考えてみては、との意見もあった。

◇英語の事業を支援するため、英語を得意とする町内在住者に働きかけも必要ではないか。



みんなで楽しく。英語を学ぼう

### 【先生の働き方改革について】

◇部活動による限界に近い繁忙を解消するためには、民間の部活動指導者の配置なども必要ではないかと意見があった。

◇先生方の長時間勤務は大変な状態にあるので、早く解消できるようにすべきである。

## 5 まとめ

○各教育委員との懇談は今日的な教育課題について、率直に懇談でき大変有意義であった。

○今後の小学校の在り方と学区再編については、昨年度の教育委員会のまとめを尊重しな

がらも、今後に向けた検討も必要と感じた。

また、コミュニティ・スクールの発足などは、学校運営と地域との関わりなどから、地域や関係者への理解が必要と感じた。

- 小規模小学校の不安な課題を克服するため、町内の小学校間の交流も必要との意見に共感した。
- 町民を対象にした英語教育は課題も多いが、「河北町は英語の町」と言われるよう教育委員会だけでなく、たとえば拡大するインバウンドと連携した行政全体での取り組みが必要との意見もあった。
- 先生方の長時間勤務は、部活動をはじめ多くの雑務が多いことから、先生の健康と質の高い教育を保つためにも、早い時期に改善することが急務である。
- いじめの課題は、町の条例と具体的な基本方針ができたことから、議会としても教育委員会と連携した取り組みが必要である。



教育委員の皆さま、お忙しいところ、貴重なご意見  
ありがとうございました

#### ※コミュニティ・スクールとは

保護者や地域のニーズを反映させるために、地域住民が学校運営に参画できるようにする仕組みや考え方を有する形態の学校のこと。